氏　　名	近藤　里江（こんどう　りえ）
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第 1282 号
学位授与の日付	2022 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	大腸癌多発肝転移に対する外科的切除の妥当性
指　導　教　員	教授　佐野　圭二（板橋・外科）
論文審査委員	主査　幸田　圭史　教授（ちば・外科） 副査　小林　宏寿　教授（溝口・外科） 副査　野島　広之　講師（ちば・外科）

論文審査結果の要旨

申請論文は「大腸癌多発肝転移に対する外科的切除の妥当性」と題する帝京医学雑誌第 45 巻 2 号に掲載予定の申請者を筆頭著者とする共著論文です。

研究の目的は、大腸癌肝転移の切除術が、長期予後を期待できる唯一の治療法であることをふまえた上で、いくつまでの肝転移が切除対象として有効であるのかという点に関して自験例を用いて検討した内容となっている。肝転移個数と切除後の予後については、これまでにもいくつかの報告があるが具体的にいくつまでを切除対象とするかは明らかとなっていないことから、これを明らかとすることを研究目的とした。

方法は、肝転移の個数によって A 群（1-4 個）、B 群（5-9 個）、C 群（10 個以上）に分けて検討し、これらの臨床病理学的所見と予後を比較した。

結果として、A 群、B 群、C 群の術後 5 年生存率は 42%、58%、64%であり、また無再発 5 年生存率も 27%、10%、20%であり、いずれも 3 群間には生存率の差はなかったことから、肝転移数 10 個以上の多発肝転移の症例においても手術治療は有用であることが示唆されたという内容である。

これまでの報告では予後不良であるのは 4 個以上、ないし 10 個以上とされてきたところ、著者らの成績は C 群においても良好であり、これまでの報告よりも良い結果が示されている。しかしながら検討された A 群は 91 例とまずまずの症例数であるが、B 群、C 群はそれぞれ 12 人、16 人と数が少なく解析には片寄りが起こる可能性がある。また、研究は後ろ向きのコホート研究であるため、患者選択においてバイアスがかかり、手術侵襲の大きい C 群では耐術能の高い元気な症例が選択された可能性も否定されない点が研究の限界である。今後はさらに症例数を重ねて同様の所見が得られるかどうかフォローアップが望まれる。2022 年 1 月 5 日に行われた審査会において、申請者は外科一般の知識および肝臓外科において十分な知識と経験を有し、また、今回の研究内容に対しても理解は十分であることから、学位授与に値すると判断しました。